

2020年度 錦田研究会（移民／難民の政治学） 募集要項

◆研究会のねらい

この研究会では、人の移動がより活発にグローバル化していく中で、移動当事者や、移動する人を受け入れる国家・社会においてどのような意識が抱かれ、変化が生じているのかについて、理解を深めていくことを目指します。基礎文献を読むことで、議論の枠組みや既存の理論を把握し、具体的な事例分析を通して、個別の事象の位相や、異なる立場の意見の背景を探っていきます。ゼミの後半では、それぞれが設定した研究テーマについて、研究の進捗状況を発表してもらい、研究手法と計画の妥当性についても議論します。担当者の錦田は、現代中東政治およびシリアやパレスチナ出身の難民を対象とした質的研究が専門ですが、ゼミでは他の地域や分野に関心のある方も歓迎です。皆さんの応募をお待ちしています。

◆選考手続き

メールで提出された応募書類の内容を踏まえて、第一次選考（2月4日（火））の日に個別面接を行います。また定員に達しなかった場合、3月25（水）～27日（金）の期間に独自に第二次選考の個別面接を行います。（3月初旬の統一日程での第二次選考は行いません。）留学で帰国が遅れる方は、3月末の第二次選考を受験してください。いずれの面接でも、審査は提出された課題内容にもとづき質問します。面接の会場は、提出課題への返信メールでお知らせします。

◆応募書類

課題と志望動機をひとつのファイルにまとめ、MS Word または PDF（A4 サイズ、横書き）で作成して、メールの添付ファイルとして下記の連絡先宛に送ってください。

【締め切り 1月24日（金）】（第一次選考）

《連絡先 aiko.nishikida@yahoo.com》

メールの件名は「研究会応募」としてください。第一次選考の応募書類の受信の確認は1月27日（月）の午後5時までには送りますので、返信が届かない場合は、ゼミのツイッター等で確認の連絡を取って下さい。

*成績表の提出は不要です。

*2月4日の個別面接の日は、応募者各自の面接の時間帯をあらかじめメールでご連絡します。それに従い、自分の順番のひとつ前の時間帯から控室で待機しておいてください。

（例：面接時間枠が10:00、10:10からそれぞれ始まる場合、10:10から面接がある人は、10:00には控室に待機しておくこと。）

面接当日に日吉の試験がある方は、応募書類の送付時に上記連絡先までご相談ください。

*追加募集で独自に行う第二次選考の有無、および行う場合の具体的な選考日程については、ゼミナール委員会の錦田研究会のサイトまたはツイッターで発表します。第二次選考への課題の提出締め切りは3月20日（金）です。受信を確認しましたら3月23日（月）の午後5時までには返信し、面接会場を指示します。

追加募集がない場合は、3月末の面接は留学帰国者のみが対象となります。

*最終的な研究会への可否の結果については、個別にメールでご連絡します。

（1）課題

以下の中から文献を選び、その中で特に関心をもった一冊、または章や事例について3つ取り上げ、それぞれの内容と学問的意義、社会的にそのテーマが重要と思われる理由について、各800字程度（3本合計で2,400字程度）で論述する。

・錦田愛子編『移民／難民のシティズンシップ』有信堂高文社、2016年

・小井土彰宏編『移民受入の国際社会学——選別メカニズムの比較分析』名古屋大学出版会、2017年

・国籍問題研究会編『二重国籍と日本』ちくま新書、2019年

・小泉康一編著『「難民」をどう捉えるか——難民・強制移動研究の理論と方法』慶應義塾大学出版会、2019年

（2）志望動機

・氏名、所属学部・学科（専攻）、学年、学籍番号、メールアドレスを記載。

・移民／難民に関わるどのような課題に関心があるのか、本研究会でどのような研究をしたいのか、その動機と内容、とらえて考えている分析手法（質的・量的、具体的な研究計画）について、先行研究や関連文献をなるべく多く引用して、2,000～3,000字程度で記述する。

◆留意事項

・当研究会では、法学部政治学科の学生と同様の条件で参加できる場合、他学部・他学科に所属する学生からの応募も受けつけます。

・海外留学を予定している場合には、具体的な渡航予定時期や渡航先、帰国予定時期についても記載してください。